



当施設にて新型コロナウイルス感染症のクラスター（陽性者6名）が発生し、ご利用者・ご家族をはじめ関係者の皆さまには、大変ご心配をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

<経緯>

8月28日ご入居者2名、8月30日1名の発熱があり、主治医の判断で担当の職員（直近で体調がすぐれないことがあった2名）の検査を行うこととなりました。結果、8月31日11時半、1名の職員の陽性が判明しました。判明と同時に、感染対策委員会のメンバーで確認しながら、陽性者発生ユニットを居室対応へ切り替え、合わせてゾーニングを行い緊急事態の対応を開始しました。

9月1日にご入居者3名、9月2日に2名の陽性が判明しました。幸い、他のユニットへの拡大を防ぐことができ、16日間で緊急事態の対応が解除となりました。陽性者5名は、早々に入院治療を受けることができ、4名は10日程度で、1名は7週間の治療を経て退院となりました。

発生から保健所の指導を仰ぎながら、職員一丸となって一つ一つ確実に対応してきました。行政をはじめ各機関の懇切丁寧な対応に、大変感謝しております。この経験を無駄にせず、今後の感染対策に活かし、コロナ過での生活を守っていけるよう努めてまいりたいと思います。

感染拡大防止策 ～抗原検査～

当施設で8月末にコロナ陽性者が確認された際、保健所の方と相談しながら、感染拡大防止策を実施しました。

その1つが「抗原検査」です。職員が新たな感染源になり、施設内、外部の方、職員のご家族などへ感染を広めてしまうリスクを未然に防ぐため、コロナ陽性対応期間中にレッドゾーン（感染エリア）でケアにあたる職員は、仕事に入る前に抗原検査を実施しました。

「もし自分が誰かに移してしまったら…」という職員の精神的不安の軽減にも繋がりました。

また、以前から施設で準備していたコロナ対応の物資に加えて、保健所、茨城県、老人福祉施設協議会より、消毒液やガウン、N95 マスクなど迅速な物資提供をしていただきました。関係各所の皆様に心より感謝申し上げます。



抗原検査キット



物資提供



楽しみ Event

社会福祉法人 絢会 敬老のお祝い

2021.9.20



みんなで賑やかにお祝いができない状況下ですが、理事長が各部署をまわり、個別に表彰状と記念品を授与。嬉し涙を流して喜んでくださる方もおられ、コロナ禍でも共にささやかな幸せを感じられる時間となりました。





つむぎプロジェクト ～点から線、線から面へ～

玉樹×地域福祉＝つむぎプロジェクトでは、様々な講座を実施しています。

10月8日、【ウキウキショッピングバス（買い物支援）の付添いボランティア講座】を開催し、16名の方が参加されました。座学では、買い物支援の目的や概要、支援する際のポイント、注意点を学びました。実践では、杖歩行や車椅子の方の介助、車に乗り降りする際の介助等を体験しました。みなさん和気あいあいとした雰囲気の中にも真剣に取り組まれて大変勉強になったようです。

10月23日・30日には、もっくん珈琲(つくば市)の川村さんを講師に迎え【ドリップコーヒーの淹れ方講座】を開催しました。八千代高校の学生さんや近隣の方など7名が参加されました。豆の種類や煎り方で味や香りに差があることや、雑味が少ない淹れ方など教えていただき、コーヒーがより身近に感じられたようです。

そして、講座への参加をきっかけにボランティア登録して下さった方々には、つむぎプロジェクトの活動にご協力いただけることになりました。

つむぎプロジェクトもスタートしてから1年半が経ち、少しずつですが「点」だった活動が「線」、線から「面」となり、地域の安心や人の輪が広がっていくことを実感し、大変心強く更にうれしく思っています。これからも、継続的な活動となるよう努めてまいります。



文：染野 コミ

2021年度 福祉車両の整備・補助事業



財団法人JKAの競輪補助を受け、リフトアップ車両の整備が完了しました。車いす利用者が、座り心地の良い車のシートに乗ることが出来るため、毎日の送迎をはじめ、入所されている方々の「お出かけ車」として利用していきたいと思っております。



大切なこと



玉樹で1番大切にしていること。それは理念にも掲げている『普通に暮らす幸せ』です。コロナ禍で思うようにお出掛けが出来ない状態が続いています。行きたい場所へも出掛けられず、会いたい人にも自由に会えない状態の中で、その方の普通に暮らすってどんなだろう？日々考える事があります。

そんな中でも玉樹の中で出来るささやかなイベントへの参加は、お年寄りの気持ちをほぐしたり沢山笑って頂けたりと、一緒に参加した職員さんとゆっくりと時間を共有できる唯一の時間なのではないかなと思います。

毎年恒例となっている『さつまいもほり』。

「そろそろ芋ほりの季節だね」とお年寄りから声をかけて下さって、楽しみにされている方もおられます。畑を目の前にすると、心が動き体も動き出し、すごい勢いで芋ほりして下さる方もいます。体が思うように動かなくても畑で収穫した芋を見て、畑仕事をしていた頃のお話をして下さる方もいます。

さつまいもほりだけれど…その参加から「広がる話題」が沢山あります。

ただお年寄りと一緒に参加すればよいのではなくて『参加して一緒に楽しむ!』。お年寄りに楽しんでもらうには、職員自身も心から楽しんでいないと、目の前のお年寄りの事を楽しませることは出来ない!と私自身いつも考えながら対応させて頂いています。

巨大な
さつまいもが
採れました～



芋ほりが
とっても
楽しみ♪



はあ～～

大きすぎて
あく重い重たい(笑)



あーん♡

うんまそう
だな～



職員も一緒に
楽しむことが大切



力を合わせて
ハイチーズ♪





何気ない日常の中に

トモさん（仮名）は、ショートステイの利用当初“新しい友達作り”が課題でもありました。利用を始めてまだ数か月。ある朝、数日ぶりに「おはようございます」と笑顔で入所されたトモさん。お友達と待ち合わせをしていたかのように、いつものお席へ向かい顔馴染みのご利用者、サトさん（仮名）の所へ向かいました。

トモさん「おはようございます。またよろしくねえ。」

サトさん「また来てくれたんだ。あんまり来なかったから、どうしたかと思ったよ。

身体どうしたんで？大丈夫かあ」

こう声を掛けたサトさんは、トモさんの手の怪我を心配し、同時に涙まで流しておられたのです。トモさんは「悪いなあ、心配してもらっちゃって、手だから困っちゃうよなあ。」と不安をこぼしながらも、その言葉かけにどこか照れ臭そうでもありました。

その後は、お互いの身体の心配や何気ない会話を続け、いつしか「こんなんじやいけないから、頑張っってやっていかないと」と笑顔になっていたのです。

おはよう！

久しぶり〜♪

心配かけちゃって

ケガ大丈夫？



何気ない会話が
お互いの心の安心

ささやかな会話の先々に、トモさんとサトさんの関係性がどんどん紡がれているんだなと感じた瞬間でした。一見、何でもないような会話ですが、お互いの「心の安心材料」となっているようです。「泊まる先に顔なじみの存在がある」ということは、ご利用者自身の安心感にも繋がり、「また来たよ」「また会ったね」と自然な会話から始まることで、一日の始まりが気持ちよくスタートできるきっかけにもなっています。

玉樹は少人数で生活するユニット型施設だからこそ、ご利用者同士の顔や声を覚える機会も自然と多くなり、コミュニケーションも取りやすく、トモさんとサトさんのように、なじみの関係を作りやすい環境だと思います。皆さんに安心して泊まっていただくためにも、ご利用者のこれまでの暮らしを理解し、一人ひとりが快適に過ごせる環境や、なじみの関係づくりをしっかりとサポートをしていきたいと思っています。



一人の事を思いケアしていく姿勢

「心地よい居場所作り」を目標に、現在、設えの見直しを行っています。その1つとして、椅子を買い替えるにあたり、一人のご利用者が思い浮かびました。アイさん（仮名）です。

いつでも笑顔で、その微笑みは皆の癒し効果となっているアイさん。少し耳が聞こえづらく、数名でのご利用者との会話が難しい時があります。周囲の話し声、笑い声がアイさんには伝わらず、寂しい表情をされる事もあります。

でも、おしゃべりが大好きな方なのです。職員と1対1では声が聞き取れるようで、笑ったり、コソコソ内緒話もして下さいます。アイさんの周りが「おしゃべり」で満たされている時に、アイさんにも満たされる時間を持っていただきたいと考えました。

ひとりの時間でも癒されて、満足して頂けるような環境…。目からの情報は充分な方…。

「そうだ！テラス席で花を眺めながら、座り心地良い椅子で過ごされては？」と思い付きました。実はとてもスタイルが良いアイさんは身長が高く、手足も長いので、既存の椅子では少し窮屈ではないかと思っていたのです。私はアイさんを思い浮かべながら設えの買い物に出かけました。

すると、ある椅子に目が留まりました。

この椅子なら足が長いアイさんでも座面の長さも充分！背もたれは視界を『適度』に遮ってくれる形状だから、周りの方の様子が気になることなく、かといって孤独感もなく休むこともできるかもしれない…これなら！と椅子を購入し、早速座っていただく。「気持ちがいい」と、とても気に入って下さいました。



まだまだ設えは見直しの真っ最中です。

椅子1つ。小さなことかもしれませんが、でも、アイさんのように「一人の事を思いケアする姿勢」で職員みんなが設えに取り組むことで、単なる座り心地だけでなく、心地よい空間作りに繋がっていくと思います。そして、**ご利用者全員が『心地よさを感じるそれぞれの居場所』**ができ、自然と『また玉樹に行きたいな』と思えるデイサービスにしていきたいと思っています。



色々な椅子を
お試し中！





一人ひとりに合った個別ケア

7月からじゅげむを利用されているウメさん(仮名)。おしゃべりが好きで笑顔がとてもチャーミングな方です。でも「人見知り」で「大人数が苦手」なので、デイサービス利用の提案をした際は「私はどこへも行きません」と前向きではなかったそうです。

そんなウメさんの気持ちに配慮して、まずは週に1回、定員10名で少人数のじゅげむを利用されることになりました。そこで私たちは、じゅげむが安心できる場所と感じていただけるように「ウメさんを知る」ことから始めました。



まずはコミュニケーション! でも大人数は苦手...

最初から他で利用者の輪に入るのではなく、まずは職員と2人でお話する時間を多くとり、顔なじみの関係になることを優先!会話の中で色々なウメさんを発見しました。



自宅では畳の部屋で過ごしていると知り、毎回和室で過ごす時間を作るとリラックスされおしゃべりも弾みます♪



散歩にお誘いし、朝顔やキンモクセイを見ながら、季節を感じる♪



今は難しい部分もあるのでサポートが必要。他の楽しみ作りも検討中!



いつも「お手伝いしましょうか?」と声をかけて下さり、「任せなさい!」と嬉しそうに手伝って下さいます♪



ヤマさんと気が合うのでは?と隣の席にご案内。意気投合し、人見知りのウメさんにお友達ができました!

ウメさんと過ごす中で、その人らしさを消さない関わりを大事にしていきたいと改めて感じています。まだまだウメさんについて新しい発見があると思います。一人ひとりをしっかり知ること、安心できる環境や、好きなこと・やりたいことを尊重し、その方に合わせた個別ケアをこれからもしっかりと考えていきたいです。



終末期の選択

終末期をどこで過ごしたい？考えたことがありますか？

- 自宅で最期まで療養したい
- 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい
- 医療機関に入院したい



新型コロナウイルスの影響で病院での面会が制限される中、終末期は「自宅」で療養したいという方が増えています。なかなか向き合いたくない問題ではありますが、まだ元気なうちから「もしも…」を前提として、家族で話し合って気持ちを合わせておくことは大切です。

事例1：Aさん 「自宅で看取る」



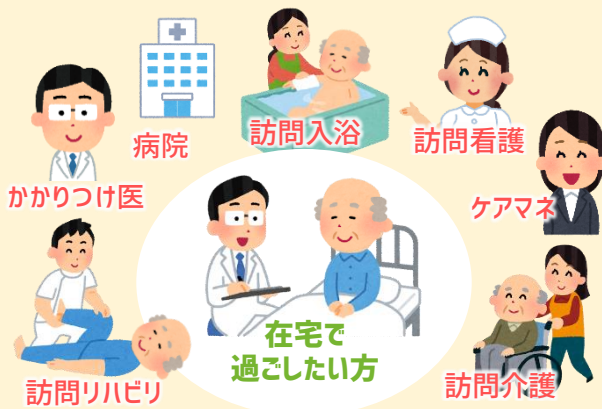
通院しながら治療していましたが受診する事が難しくなり、自宅での最期を希望され、訪問診療に切り替えました。訪問看護・訪問入浴の利用そして環境面を整え、家族に見守られながら最期を迎えました。

事例2：Bさん 「病院で看取る」



病院で療養していましたが、体調が落ち着いている間、家族と過ごしたいと自宅に戻られました。訪問看護の利用と環境面を整え過ごされていましたが、体調が悪化され病院で最期を迎えました。

<終末期の在宅療養を支えてくれる機関・人々>



終末期においては、このまま在宅で対応すべきか、入院すべきか、常に心が揺れます。どんな選択をしても間違いではありません。

私たちは、医師や看護師、訪問介護、訪問入浴などの支援チームを作り、安心して最期を迎えられるよう、ご本人・ご家族に寄り添った支援を行っていきたいと思います。

文：関 奈保美

掲載された写真は、本人様並びに家族様の了承の上で掲載しております。

発行：社会福祉法人絢会 発行責任者：吉川 秀貴

撮影・編集：絢会の仲間たち&佐藤あすか

〒300-3572 茨城県結城郡八千代町菅谷 1021-1

TEL 0296-49-3886 FAX 0296-49-2987

Mail info@tamaki.or.jp

<絢会の事業所一覧>

- 特別養護老人ホーム 玉樹
- ショートステイ 玉樹
- デイサービスセンター玉樹
- デイサービスセンターじゅげむ
- 居宅介護支援事業所 玉樹

